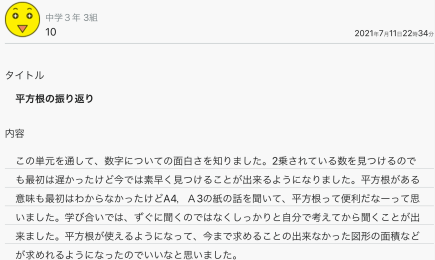
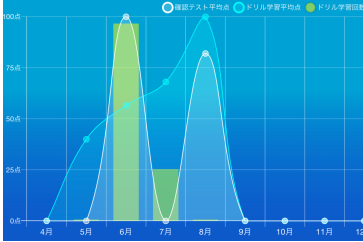


ICT実践レポート

作成者（中部中学校） 氏名（杉本 渉）

学年	第3学年
実践内容	1人1台タブレットを使用した、授業終末の実態把握の実践
活用したICT機器 及びアプリ	・教師用タブレット（Windows） ・生徒1人1台タブレット ・eライブラリアドバンス（https://ela.education.ne.jp/teachers） 
活用の概要	・3年生38人の学級で実践を行った。 ・単元「平方根」「2次方程式」の技能習得場面で活用。以前より、授業の終末で小テストを行っており、その場面でICT機器を活用した。 ・単位時間で学習した内容を教師が指定し、送信すると一人一人のタブレットに問題が提示され、タブレット内で解答した。 ・単元の終わりには、自身の学習を振り返る場面で、eライブラリ内の機能を用いて提出させた。 ・解答結果、正答率、解答時間が教師用タブレットに随時集計された。 
振り返り（成果）	・個々の学習状況が簡単に表示され、実態把握がしやすくなった。 ・振り返り機能では、エクセルシートに変換することができ、データ管理が容易になった。 ・問題は、「基本」「標準」「発展」と分かれており、生徒の実態や、単位時間の内容の難易度によって変えることができた。また、小テストの問題を教師が作成、印刷、配布する労力を少なくできた。 ・生徒は、学習した内容が、蓄積され、自分がどの時間の問題をどの程度できているのか分かりやすくなった。 ・スマートフォンなどからもアクセスすることができるため、授業内で活動を行うことができなかった生徒も、家庭で行うことができた。 
振り返り（課題）	・タブレットの操作方法を丁寧に教える時間を設ける必要があった。 ・タブレットの立ち上げにやはり時間がかかった。しかし、何度も実践をしている間にスムーズに問題に取り組めるようになった。36人全員が問題に取り組み始めるまでの時間を調査すると、1回目の実践では、4分36秒かかったが、4回目の実践では、1分15秒で全ての生徒が問題に取り組むことができた。また、個人で練習問題に取り組んでいる時間にタブレットを立ち上げ、終わり次第小テストに取り組むなど、工夫をする生徒も出てきており、初めに懸念していた、活動に取り組む際の時間の浪費は、試行回数を増やすごとに少なくなった。 ・計算は、アプリ内のメモ内で行うことができるが、タッチペンの購入がされていないため、操作性が悪く、ノートに途中式を書く生徒も多かった。
生徒の反応	・ほとんどの問題が5択になっており、ゲーム感覚で行っている生徒がいた。 ・アンケートでは、「家庭学習が充実した」と回答する生徒がいた。 ・タブレット操作が苦手な生徒は、「時間がかかる」と感想を述べた生徒がいた。 ・不登校傾向のある生徒とつながれるきっかけとなった。